
あたしとクラスメイトの44日

首吊り人形

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あたしとクラスメイトの44日

【Nコード】

N50000

【作者名】

首吊り人形

【あらすじ】

10個の問いをクリアしなければ、死ぬ。

はたして全生徒623人の中から何人生き残れるか。

鳴り響く爆音

あたしはあの長い長い地獄の日の生き残り。

あたしは生き残るためにクラスメイトと助け合ったりときには裏切ったそしてときには…

殺したりもした。

あたしの身体からはあれから10日たっているのに血の香りがする。

…すべては60日前にさかのぼる。
60日前

7月7日（月）

どうも体がだるいし学校もあんまりいきたくない。

そんなことを思っていると、電話が鳴った。

こんな朝早くに誰だろう。

「はい、もしもし」

あたしはだるそうに言った。

「朱理！何寝ぼけてんの！今日はテストだよ！」

あ！

忘れてた！

あたしの学校はテストの日はいつもより早く学校に行かなければならない。

あたしはケータイの相手を見捨て、急いで家を出た。

あたしは無我夢中で自転車をとばしていた。

テストが始まるまであと5分もない。

ギリギリ間に合うかな…

…

…

間に合った。

あたしはなんとか間に合ったみたいだけど、よく考えたらあの電話の相手は誰だったんだろう。

非通知だったし…

そんな事を考えていると担任が教室に来た。

そしておもいがけない事を言う。

「今日はみんな早いな。」

え？

テストは？

「古咲先生。今日はテストじゃないんですか。」
学級委員の坂崎くんが言った。

その時、校内放送のアナウンスが流れた。

「これからみなさんのテストを始めるので教師のみなさんは職員室に戻ってください。もう一度繰り返しします。」

え…試験監督はいないの？

それに誰よ。この声は。

あたしは繰り返し返している声を聞いてそう思った。
古咲は訳が分からない様子で教室を出て行った。
教室がざわめいた。

しばらくざわめいた後に、またアナウンスが流れた。

「みなさん、こんにちは。」

さっきの声とは違う。

たぶん女の子だろう。

「これからみなさんにテストをしてもらいます。」

は？

なんなの？

テストって？

「試験内容は簡単。10個の問いをクリアしていただく。それでは1問目。」

なによ。それ。

「これから30分後、体育館に3000個のイスを置いときます。その中のどれかのイスに座るだけ。ただし、3個座ると爆発するイスがあります。注意してください。それではスタート」

イスに座るまで残り30分

教室はざわめいていた。

あたしがぼーっと空を眺めていると、前の席の岡崎さきに話しかけられた。

「ぼーっとしてるけど大丈夫、朱理？」

あたしは無言でうなづく。

「だるいよね。爆弾とか絶対嘘でしょ。」

さきは声が大きくて、喋るといつも唾が飛んで来るのであたしは好きじゃない。

だからあたしは5分くらい話をしたら、トイレに行くといい、その場を離れた。

しかしあたしはトイレとは逆の職員室に向かった。

職員室で聞きたいことがあったからだ。

職員室についた時イスに座るまで残り20分になっていた。

コンコン

あたしはしつれいしますといい、扉を開けた。

シーン

職員室には誰もいなかった。

でも、教頭の机にはなんかあるかもしれない。
ガサゴソガサゴソ

あつた！

早く中を見ないと！

その時、職員室のドアが開いた。

イスに座るまで残り5分

「佐々木さん！」

家庭科の宮本先生だ。

なんであたしを呼んでるんだろう。

「早く職員室から出て！爆発するから！」

え…

爆発？

あたしは仕方なく職員室を出た。

もう5分もない…

「宮本先生、あたしは体育館に行きますね。」

あたしは体育館がある方に走って向かった。

その時、

バーン

どこかが爆発する音がした。

あたしは爆音を聞いて、さっきより早いペースで体育館に向かう。

間に合った！

あたし体育館にギリギリ間に合った。

そこには全校生徒の半分くらいいた。

やっぱみんな来ないか…

「朱理…？」

あたしは声をする方に振り向くと、同じクラスの朝日梨奈がいた。

「よかった。朱理が見つかった。探してたから。まあ、お互い話すのは後にして、イスに座ろう。」

その時

体育館に着いているテレビがついた。

「ピーンポーン」

「間違えた生徒に罰を与えます。」

え…

「それでは死んでください。」

バーン

あれ…生きてる…？

「体育館にいない生徒は、今ので全員死にました。」

え？

嘘でしょ…

1 問目 正解者486人

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5000o/>

あたしとクラスメイトの44日

2010年10月30日20時43分発行